

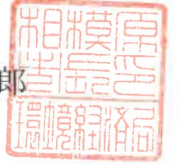
7 廃政課第 1 2 0 7 号

令和 7 年 1 1 月 1 3 日

相模原市廃棄物減量等推進審議会

会長 大木 恵 殿

相模原市長 本村 賢太郎



最終処分場に頼らない持続可能な未来を目指すためのごみの減量化及び資源
化に関する取組について（諮問）

相模原市廃棄物の減量化、資源化及び適正処理等の推進に関する条例（昭和 4 7
年条例第 1 2 号）第 5 4 条の規定に基づき、別紙のとおり諮問します。

以 上

別 紙

1 諮問事項

最終処分場に頼らない持続可能な未来を目指すためのごみの減量化及び資源化に関する取組について

- (1) さらなる4Rの推進
- (2) ごみ減量に係るより効果的な啓発
- (3) 家庭ごみの有料化
- (4) 家庭ごみの戸別収集
- (5) 焼却灰等の資源化
- (6) その他ごみ減量化、資源化に資する取組

2 諮問理由

近年、我が国では気候変動や人口減少、超高齢社会、人手不足などの課題が顕在化しており、これらは相互に関連して私たちの生活にさまざまな影響を与えています。

本市の廃棄物行政においても、これらの課題に対応していく必要があり、より効果的なごみ減量化の取組と効率的な処理体制の構築を考えていかなければなりません。

特に南区麻溝台にある一般廃棄物最終処分場については、現在のペースで埋立が進めば令和19年に満杯になってしまうと試算しています。

廃棄物の適正処理の推進に当たっては、焼却灰等を埋立処分している最終処分場の役割が欠かせないことから、現在、次期最終処分場の整備に取り組んでいるところです。

しかし、候補地選定に当たっては、自然環境への配慮や広大な土地を確保することのほか、候補地となる地域への負担が生じることから、市内のどの地域を選定したとしても、多くの課題の解決に全力で取り組まなければなりません。

こうしたことを踏まえると、将来にわたり安定的で持続的な廃棄物処理体制を確保していく上では、最終処分場の在り方について一定の方向性を出すべき時期に来ているといえます。

そして、最終処分場を取り巻く問題は、20年後、30年後の未来を見据えて考えていくべきものであり、次の世代に問題を先送りしないために、今からより一層できる限りのごみ減量に取り組み、最終処分場に頼らない未来を目指し、持続可能な社会を構築していくべきと考えています。

そのために、令和10年3月に予定する次期一般廃棄物処理基本計画（第4

次)の策定に先立ち、未来に向けたごみの減量化や資源化のための取組の骨子となる基本的な方針を定めてまいりたいと考えています。

これまでも本市では、ごみの減量化や資源化に向けて、リデュース（排出抑制）、リユース（再使用）、リサイクル（再生利用）に、リフューズ（発生抑制）を加えた4Rの取組を通じて、循環型社会の構築を進めています。

これらの取組や市民の協力により、本市のごみの総排出量は、平成26年度の23万3,000tから令和6年度までの10年間で19万8,000tへと減少しました。一方で、清掃工場で行うごみの組成分析調査の結果によれば、家庭から排出される一般ごみの中には、未だ約30%の資源化可能物が混ざっており、それらを資源化することによりまだまだごみを削減できる余地が残されています。

こうした状況に対応するため、現在、新たな資源としての分別項目を増やすべく、製品プラスチックの回収について、令和8年10月の開始に向けて準備を進めているところです。今後も新たな資源の分別項目を増やすことにより、さらなるごみの減量化に取り組んでいく必要があると考えています。

また、既に他自治体でも導入され、ごみ減量の効果が高いと言われている家庭ごみの有料化や戸別収集の取組についても、その実施の是非について議論をより深めていくことが不可欠であると考えています。

さらに、最終処分場の埋立量を減らすための取組には、ごみ焼却によって生成する溶融スラグの利用と民間施設における焼却灰等の資源化があります。溶融スラグについては、民間企業との共同で新たな利用方法の研究を進めており、公共事業等における利用も一層進めていくことで、埋立量の減少につなげていかなければなりません。焼却灰等の資源化については多額の経費が必要となり、費用対効果の観点や事業手法の十分な検証も必要となります。

次の世代へ安心して生活できる環境をつないでいくために、行政のみならず市民全体が、ごみに関する問題に関心を持ち、ごみの減量化や資源化の取組に積極的に参加していただけるよう、意識の醸成を図ることも行政の大切な役割となります。

つきましては、「最終処分場に頼らない未来を目指すため」に今後進めるべき施策について、審議会として幅広いご見識と多角的な視点からご審議いただきたく、諮問いたします。